

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394500041		
法人名	社会福祉法人 かなえ福祉会		
事業所名	グループホーム すないの家尾張旭 (ききょう)		
所在地	尾張旭市柏井町弥栄256番1		
自己評価作成日	平成29年2月20日	評価結果市町村受理日	平成29年4月24日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2394500041-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2016_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2394500041-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』		
所在地	愛知県名古屋市中区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成29年3月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>私たち職員は、安心できる空間を提供し、常に「親しき仲にも礼儀あり」を心にため楽しく、穏やかに生活して頂けるように努めます。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>ホームは特別養護老人ホームを併設していることで、地域の方との交流や職員研修等、事業所全体での取り組みが行われている。非常災害を想定した訓練についても合同で実施することで、職員間の連携に取り組んでいる。ホームの職員体制も徐々に整備されていることもあり、職員間で各種の委員会を通じた取り組みが始められており、併設の特養とも連携した研修等、職員の資質向上に向けた取り組みにつなげている。ホームのユニットは平面につながっていることで、日常的に利用者がユニットを歩き来できる構造であることで、利用者が日常生活をゆったりと過ごすことができる配慮が行われている。ユニット間での職員の連携も行われており、夜間の利用者の急変時等の際には、ユニット間で柔軟に対応することが可能であり、利用者、家族にとっても安心できる環境が整えられている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	就業中に携行する、社員証の裏面に、理念を印刷し、日頃より意識づけている。	利用者に末永く過ごして欲しいという思いを込めながら、ホームが「自分の家」と思ってもらえるような内容の理念を掲げている。また、職員には個別の目標を考え、理念の実践につなげる取り組みにつなげている。	職員の入れ替わりがあり、開設時より職員体制が変更になっている。理念を見直しを含めた振り返りを行いながら、理念に合わせた支援につながる取り組みに期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育園との交流や、施設内ホールを開放し、会議やイベントに使っていただくことで、地域の方たちとの交流を深めている。	地域の方との交流については、併設の特養と連携して行われており、地域の保育園との交流会が実施されている。また、地域交流スペースについては、地域の民生委員の方に活用してもらい取り組みも行われている。	地域の方との交流の機会を深めるためにも、併設の特養とも連携しながら、ホームで出来ることを検討し、交流スペースを活用した取り組み等にも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域の方々の相談を、365日受けれる様に体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者の、日頃の様子やサービスについての報告し、話し合いでいただいた意見を参考に、サービスの向上に努めている。	会議は併設の特養と合同で実施され、会議の際には運営状況を記載した報告書を用意しており、出席者に現状を知ってもらうように取り組んでいる。また、土曜日の開催であるが、市職員の出席が得られており、情報交換につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	毎月の会議以外にも、制度変更などの時は、運営推進会議で家族様からの質問に答えて頂くなど、協力関係を築くように努めている。	市の担当部署や地域包括支援センターとは定期的な運営推進会議等を通じて、情報交換の機会をつくっている。また、市内の介護事業所が集まる連絡会には、特養の職員とも連携しながら出席しており、情報交換の機会につなげている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	カードキー使用等で、外出時には、職員と一緒に環境になるように工夫している。また、身体拘束についての勉強会を催し、理解を深めていくよう取り組んでいる。	ホーム入口はカードキー方式で施錠されているが、ユニットの移動が自由にできるため、ユニット間で連携した利用者の見守りが行われている。また、特養の職員との研修会の取り組みや委員会を通じた職員の振り返りの機会もつくられている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	入浴などで身体チェックをし、職員で情報を共有している。委員会活動、勉強会、カンファレンスを通じて虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	勉強会など行っていない為、全職員の理解は不十分。家族がいない方などには、成年後見関係機関等への支援も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	常に、本人様家族様の意向を第一に考え、話し合い十分な説明を行い、理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を設置したり、365日事務所を開放し、いつでも相談が受けれる様に工夫している。頂いた意見に対しては、迅速な対応に努めている。	ホームや合同の行事を通じた交流会の機会をつくり、家族との意見交換等の機会をつついている。家族からの要望等については、ホーム管理者の他にも事業所全体を統括する施設長も対応する体制がつけられている。また、年4回の便りの発行が行われている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案を常に聞くように環境を整え運営に反映させるよう努めている。	ホームの職員体制を徐々に整えており、ユニットリーダーを中心にしながら、現場職員から意見等を出してもらい、運営に反映していく取り組みを継続している。また、職員間で委員会を活用した取り組みも行われている。	職員が前向きな気持ちで勤務できるように、委員会を通じた取り組みをはじめ、職員の意欲を引き出せるような取り組みの継続に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員の勤務状況等を把握し、介護技術の向上や向上心を持って働き続けられる様に、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人内外の研修を受講させ、OJTも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	他事業者を招いて、勉強会を実施し、ケアの方法業務の取り組み方について意見交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人の要望を傾聴し、安心して暮らせるように関係づくり、課題点の解決に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族の要望を傾聴し、安心して信頼して頂ける関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	本人、家族が必要とする支援に対して、優先順位を見極めて対応するように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	本人のADLを考慮し、暮らしの一環とした家事等各人の出来る範囲で参加して頂く事で、暮らし共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会時など、出来る限り、日頃の様子を伝え、今後の支援方法などの確認、話し合いに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	施設内にゲストルームを設け、寝食を共にして頂けるようにしている。また、近隣施設への外出や面会時間外に対しても出来る限りの対応に努めている。	入居前からの友人、知人との交流を継続している方や遠方の方との手紙等の交流も行われている。また、家族との食事や買い物等を通じた外出の他にも、墓参りや法事等を通じて、家族と過ごしている方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係を把握し、レクリエーション等を通して、他者への理解を深め、支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	サービスの利用が終了しても、出来る限りの相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	受容と傾聴を心がけて本人の意向を聞き取ったり雑談を通して、求めている思いを把握し、QOLの向上に努めている。	職員は日中の時間等を通じて得た利用者に関する気付き等については、日常的に職員間で共有するよう取り組んでいる。また、毎月のユニット毎にカンファレンスの取り組みを行っており、利用者の意向等の検討が行われている。	ユニットリーダーを中心にしながら徐々に職員体制を整えており、担当制の活用した利用者の把握も始められている。今後に向けたより良い取り組みにつながることを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	本人の言葉や家族からの聞き取りを通し、暮らしやすい環境等を作っていくよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の様子をケース記録、申し送り等で、情報を共有し、現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアミーティングを通し、ケアの改善に努めるとともに、家族の思い、また本人の要望を含めて介護計画を作成している。	介護計画は基本6か月での見直しを行っており、モニタリングについては担当制も活用しながら毎月の実施が行われている。独自の「くらしのシート」を活用した取り組みを行っており、職員間で情報を共有しやすい工夫を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別の記録、情報の共有はできているが、介護計画の見直しや実践に反映できていない所もあるので、反映できるように努める。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人のニーズに対応できるように検討し、家族の状況をふまえ、可能な限りの対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の中で生活をしている事を、感じて頂けるように、ケアの工夫に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	往診対応に加え、他医療機関希望の方には、今まで通り受診して頂くと同時に出来る限りの協力を努めている。	ホームは訪問診療専門の医療機関と連携しており、定期的な訪問診療と合わせて、状態変化等に合わせた対応も可能な体制が構築されている。また、併設の特養に看護職員が勤務しており、ホームの利用者の健康チェック等の支援が行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	法人内チームDrや併設する特養の看護師と連携を図り、日常の健康管理から、日々の変化まで把握し、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院をスムーズに行えるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談などを行い、関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合、法人内チームDrや併設する特養の看護師と一緒に、今後の治療、ケアについて話し合い、本人や家族の思いが叶う支援に努めている。	ホーム単独での看取り支援を行わない方針を家族に伝えているが、現状にも合わせながら、ホームで支援可能な取り組みが行われている。また、家族との話し合いの際には、協力医の説明等も行われており、次の生活場所への移行支援等も行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	委員会が中心になり、研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	併設の特養と一緒に、避難訓練を定期的に行っている。災害時には交流ホールを開放し、住民の避難受け入れも行っている。	年2回の避難訓練の際には、併設の特養との合同で行われており、職員間で連携しながら、夜間想定訓練や通報装置の確認等も行われている。地域の方との連携にも取り組んでいる。また、特養に備蓄品の確保も行われている。	事業所全体で地域の方の受け入れを想定した交流スペースと備蓄品の確保が行われている。地域の方と継続的に交流しながら、相互の協力関係につながることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	取り組みは不十分であるが、委員会を設けたり、職員同士で注意している。	職員の日常的な言葉遣い等については、会議等を通じた注意喚起等の機会がつくられている。また、特養の職員とも連携した委員会を通じた研修会の機会もつくられており、職員間でチェックする等の取り組みも行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	認知症高齢者の場合であっても、極力その人らしい自己決定を支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	決まりやルールを無理強いすることないように、心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	清潔保持や整容はともかく、おしゃれの支援までは行き届いていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	厨房による食事提供のため、準備など一緒にできない。	食事については、事業所の厨房から提供されており、厨房と連携しながら身体状態に合わせた食事形態の配慮も行われている。利用者の中には好みのおかず類を希望する方がおり、ホームで独自に提供する等の対応を行っている。	現場の職員からの意見もあがっていることもあり、ホームのキッチンを活用したおやつ作りや季節に合わせた行事食の取り組みが行われていくことを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	無理強いせず、個々の食事量や水運量については、注意して支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	義歯の管理も含めて、支援の必要な方の口腔状態は、相当程度把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	記録に基づき、個々の状態に応じて自立に向けた支援を行っている。	利用者全員の排泄記録を残しながら、申し送りの時間と合わせて職員間での情報の共有につなげている。また、医療面での連携の他にも、利用者により、職員複数での介助も行われており、トイレでの排泄に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	問題意識はあるが、下剤や座薬に頼る部分がある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている。	シフト上、一人ひとりの希望やタイミング通りに入浴できていない。	基本は週2回の入浴となっているが、時間については、午前と午後に行われている。利用者の身体状態に合わせた職員複数での介助の他にも、事業所内に特殊浴槽や寝浴等が用意されており、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	状態を見て、体調や眠気の有無により、臥床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬については、大まかな所は理解しているが、実際の副作用までは理解していない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	十分ではないが、役割を持って頂いたり、趣味に応じたレクに参加してもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的にはではないが、レクリエーションの一环として外出を計画し実行している。	建物の構造や建物の入り口が急な坂道になっていることで、日常的な外出の機会に限られているが、季節に合わせた外出行事は行われている。また、関係の方の協力も得ながら、市内の公園の展望台のレストランの食事外出等の取り組みが行われている。	ホームでは、利用者の外出の機会を増やす取り組みを検討するとともに、建物内のスペースや庭の活用等、今後に向けた外出の機会が増える取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	訪問販売で買い物は楽しんでもらっている。お金の所持は、トラブル回避のため基本は禁止し、施設が立て替える。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙が書ける方にはそのようにしてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	フロア等の共有スペースには季節感を楽しんでもらえるように折り紙などを利用している。	ユニットが平面につながっており、利用者が自由に移動できる構造となっている。リビングが建物の3階であることで採光に優れた環境でもある。また、利用者との作品や季節に合わせた飾り付け等が増えており、職員間で生活環境の整備に取り組んでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	2~3人掛けのソファを置き、くつろいでもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居室で、居心地良く過ごせるように、随時ご本人の意向に気を配っている。	居室にはトイレが設置されており、ベッドの位置を変える等、利用者の身体状況等に配慮した取り組みが行われている。また、利用者の中には、入居前から愛用していた道具類の持ち込みが行われており、一人ひとりに合わせた居室づくりが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	残存能力を活かし、その方のできる形でおこなえるように支援している。		